

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公開番号】特開2015-139508(P2015-139508A)
 【公開日】平成27年8月3日 (2015.8.3)
 【年通号数】公開・登録公報2015-049
 【出願番号】特願2014-13074(P2014-13074)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 5/142 (2006.01)

A 6 1 M 5/148 (2006.01)

A 6 1 M 5/20 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 5/14 4 8 1

A 6 1 M 5/14 4 8 5 F

A 6 1 M 5/20

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月6日 (2017.1.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

また、前記ポンプは、シリンジと当該シリンジ内を移動するピストンとを備えることが望ましい。

このようにすることで、流体が貯留された容器の容積を変化させて流体を流動させることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

ベース部材 1 5 0 には、窓部材 1 6 0 が固着される。窓部材 1 6 0 は、その中央に窓部 1 6 1 の開口を有する。窓部材 1 6 0 とベース部材 1 5 0 との間には、圧力伝達板 1 7 0 が配置される。圧力伝達板 1 7 0 の面積は、窓部 1 6 1 の開口面積よりも大きい。そのため、圧力伝達板 1 7 0 は、窓部 1 6 1 とベース部材 1 5 0 との間でその移動を制限される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 8】

このような構成にすることによって、詰まり検出部 1 0 0 よりも下流側のカテーテル 9 1 で詰まりが生じた場合に、薄膜 1 7 2 が球体 1 3 1 を押す方向に変形する。薄膜 1 7 2 の上面には、薄板 1 7 1 が設けられていることから、球体 1 3 1 に対して薄板 1 7 1 が接触し、薄膜 1 7 2 の上下方向の変化を確実に伝達することができる。そして、下流側の力

テーブル 9 1 における詰まりを確実に検出することができるようになる。